

個別指導計画の評価を活用した 教育課程の充実について

令和7年3月
東京都教育委員会

はじめに

平成 29 年度に改訂された学習指導要領では、「各学校においては児童又は生徒や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと、教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと、教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことなどを通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと（以下「カリキュラム・マネジメント」という。）に努めるものとする」ことが規定されています。

その際、「児童又は生徒に何が身に付いたかという学習の成果を的確に捉え」、「個別の指導計画の実施状況の評価と改善を、教育課程の評価と改善につなげていくよう工夫すること」が新たに示されました。

また、知的障害者である児童又は生徒に対する教育を行う特別支援学校において、各教科の指導に当たっては、各教科の段階に示す内容を基に、児童又は生徒の知的障害の状態や経験等に応じて、具体的に指導内容を設定するものとするが示されており、その際、小学部は6年間、中学部は3年間を見通して計画的に指導するものとするが規定されています。

本研究では、このような学習指導要領の改訂を踏まえ、見通しをもって指導の計画を作成し、個別指導計画の実施状況の評価と改善を、教育課程の評価と改善につなげる基本的な考え方や具体的な方法を検討しました。

こちらのアイコンを参考に、読み進めてください。

知的



主に、知的障害特別支援学校に関する内容

全校種



すべての特別支援学校に関する内容

I 個別指導計画の評価を活用した教育課程の充実とは 全校種

カリキュラム・マネジメントとは、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくことです。この側面（＝方法）として、学習指導要領においては、小学校から高等学校、特別支援学校まで、学校の種別を問わずに3つの共通事項が示されています。

加えて、特別支援学校の学習指導要領にのみ、4つ目の側面（＝方法）として、次の下線を付した事項が示されています。

【特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第1章第2節の4】

4 各学校においては、児童又は生徒や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと、教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと、教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことなどを通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと（以下「カリキュラム・マネジメント」という。）に努めるものとする。その際、児童又は生徒に何が身に付いたかという学習の成果を的確に捉え、第3節の3の(3)のイに示す個別の指導計画の実施状況の評価と改善を、教育課程の評価と改善につなげていくよう工夫すること。（※高等部の学習指導要領も同様の記載があります）

特別支援学校に在籍する児童・生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等は様々です。そのため、個別の指導計画に基づいて児童・生徒に何が身に付いたかという学習の成果を的確に捉え、教育課程の評価と改善につなげていくよう工夫することが大切であると示されています。

教育課程とは、学校教育の目的や目標を達成するために、教育の内容を子供の心身の発達に応じ、授業時数との関連において総合的に組織した学校の教育計画のことです。教育課程を具体化した計画、つまり、授業につながる指導方法や使用教材も含めて具体的な指導により重点を置いて作成したものが指導計画であり、中でも学校においては年間指導計画が大きな役割を担っています。

そこで、本事業では個別指導計画の実施状況の評価と改善を、年間指導計画の評価と改善につなげていく仕組みを確立できるように検討することにしました。

年間指導計画

学年	学期	単元	指導計画	指導の工夫
4年	1	「ガイダンス」	① 社会について知り、関心をもつ活動に参加できる。(a) ② 社会の発展に際しての役割を調べる。【社会参加とまじり】 ③ 社会参加の意義を調べる。【社会参加とまじり】	グループ学習 社会 グループ学習
4年	2	「まわりを考えよう」	① 社会について知り、関心をもつ活動に参加できる。(a) ② 社会の発展に際しての役割を調べる。【社会参加とまじり】 ③ 社会参加の意義を調べる。【社会参加とまじり】	グループ学習 社会 グループ学習
4年	3	「まわりを考えよう」	① 社会について知り、関心をもつ活動に参加できる。(a) ② 社会の発展に際しての役割を調べる。【社会参加とまじり】 ③ 社会参加の意義を調べる。【社会参加とまじり】	グループ学習 社会 グループ学習
4年	4	「まわりを考えよう」	① 社会について知り、関心をもつ活動に参加できる。(a) ② 社会の発展に際しての役割を調べる。【社会参加とまじり】 ③ 社会参加の意義を調べる。【社会参加とまじり】	グループ学習 社会 グループ学習

実施、評価、改善

学年	学期	単元	指導計画	指導の工夫
4年	1	「ガイダンス」	① 社会について知り、関心をもつ活動に参加できる。(a) ② 社会の発展に際しての役割を調べる。【社会参加とまじり】 ③ 社会参加の意義を調べる。【社会参加とまじり】	グループ学習 社会 グループ学習
4年	2	「まわりを考えよう」	① 社会について知り、関心をもつ活動に参加できる。(a) ② 社会の発展に際しての役割を調べる。【社会参加とまじり】 ③ 社会参加の意義を調べる。【社会参加とまじり】	グループ学習 社会 グループ学習
4年	3	「まわりを考えよう」	① 社会について知り、関心をもつ活動に参加できる。(a) ② 社会の発展に際しての役割を調べる。【社会参加とまじり】 ③ 社会参加の意義を調べる。【社会参加とまじり】	グループ学習 社会 グループ学習
4年	4	「まわりを考えよう」	① 社会について知り、関心をもつ活動に参加できる。(a) ② 社会の発展に際しての役割を調べる。【社会参加とまじり】 ③ 社会参加の意義を調べる。【社会参加とまじり】	グループ学習 社会 グループ学習

年間指導計画を踏まえて作成

この取組を生み出していく

次年度の計画を作成

学年	学期	単元	指導計画	指導の工夫
4年	1	「ガイダンス」	① 社会について知り、関心をもつ活動に参加できる。(a) ② 社会の発展に際しての役割を調べる。【社会参加とまじり】 ③ 社会参加の意義を調べる。【社会参加とまじり】	グループ学習 社会 グループ学習
4年	2	「まわりを考えよう」	① 社会について知り、関心をもつ活動に参加できる。(a) ② 社会の発展に際しての役割を調べる。【社会参加とまじり】 ③ 社会参加の意義を調べる。【社会参加とまじり】	グループ学習 社会 グループ学習
4年	3	「まわりを考えよう」	① 社会について知り、関心をもつ活動に参加できる。(a) ② 社会の発展に際しての役割を調べる。【社会参加とまじり】 ③ 社会参加の意義を調べる。【社会参加とまじり】	グループ学習 社会 グループ学習
4年	4	「まわりを考えよう」	① 社会について知り、関心をもつ活動に参加できる。(a) ② 社会の発展に際しての役割を調べる。【社会参加とまじり】 ③ 社会参加の意義を調べる。【社会参加とまじり】	グループ学習 社会 グループ学習

実施、評価、改善

学年	学期	単元	指導計画	指導の工夫
4年	1	「ガイダンス」	① 社会について知り、関心をもつ活動に参加できる。(a) ② 社会の発展に際しての役割を調べる。【社会参加とまじり】 ③ 社会参加の意義を調べる。【社会参加とまじり】	グループ学習 社会 グループ学習
4年	2	「まわりを考えよう」	① 社会について知り、関心をもつ活動に参加できる。(a) ② 社会の発展に際しての役割を調べる。【社会参加とまじり】 ③ 社会参加の意義を調べる。【社会参加とまじり】	グループ学習 社会 グループ学習
4年	3	「まわりを考えよう」	① 社会について知り、関心をもつ活動に参加できる。(a) ② 社会の発展に際しての役割を調べる。【社会参加とまじり】 ③ 社会参加の意義を調べる。【社会参加とまじり】	グループ学習 社会 グループ学習
4年	4	「まわりを考えよう」	① 社会について知り、関心をもつ活動に参加できる。(a) ② 社会の発展に際しての役割を調べる。【社会参加とまじり】 ③ 社会参加の意義を調べる。【社会参加とまじり】	グループ学習 社会 グループ学習

個別指導計画

個別指導計画は、年間指導計画を踏まえて作成されています。そして、個別に学習の実施状況を評価し、本人や保護者に説明するとともに、次年度の個別指導計画の作成につなげています。

こうした活用に仕方に加えて、同じ学年の児童・生徒の個別指導計画の評価を総括し、当該の学年の翌年度の年間指導計画の改善に生かしていくことが大切です。

特に、知的障害の特別支援学校の場合、学習指導要領に示された知的障害の各教科を取り扱うこととなります。その際には、小学部の6年間、中学部・高等部の3年間を見通して計画的に指導することになっていますが、各教科の指導に当たっては、各教科の段階に示す内容を基に、児童又は生徒の知的障害の状態や経験等に応じて、具体的に指導内容を設定することにもなっています。

年間指導計画において具体的な指導内容を設定するに当たっては、当該の学年に属する児童・生徒の個別指導計画の実施状況の評価が、検討の際の材料として必要です。

II 学習指導要領を踏まえた年間指導計画の作成 知的

教科の内容が段階で示されている知的障害特別支援学校の場合、年間指導計画を作成するに当たって特に注意すべき事項があります。義務教育段階を例に、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領の規定の中でポイントとなる事項を整理しました。

1 第1章第3節の3の(1)のク関連

各教科の指導に当たっては、各教科の段階に示す内容を基に、知的障害の状態や経験等に応じて、具体的に指導内容を設定するものとされています。その際、小学部は6年間、中学部は3年間を見通して計画的に指導するものともされています。

2 第1章第3節の3の(1)のア関連

各教科、道徳科、外国語活動、特別活動及び自立活動の内容に関する事項を取り扱わなければならないとされています。

3 第1章第8節の1の(1)関連

2があくまでも原則ですが、在籍している児童・生徒の集団の実態によっては、内容に関する事項をすべて取り扱うことが難しい場合もあります。この場合は、児童・生徒の障害の状態により特に必要がある場合、各教科及び外国語活動の目標及び内容に関する事項の一部を取り扱わないことができるという規定を適用することが考えられます。

なお、この規定の適用の判断に際しては、各教科及び外国語活動の目標に対応した評価規準に児童・生徒の実態を照らし評価規準を質的に逸脱しない範囲で学習上の困難に応じた手だてを適切に講じても、目標達成が困難であるのかどうかを検討すべきであることに留意が必要です。

4 第1章第8節の1の(4)及び(6)関連

3同様に、在籍している児童・生徒の集団の実態によっては、中学部の各教科及び道徳科の目標及び内容に関する事項の一部又は全部を、当該各教科に相当する小学部の各教科及び道徳科の目標及び内容に関する事項の一部又は全部によって、替えることができます。また、幼稚部教育

要領に示す各領域のねらい及び内容の一部を取り入れることができることにもなっています。

5 第2章第1節第2款第2の2及び第2節第2款第2関連

児童・生徒の学習効果が最大限に期待できる場合は、各教科等を合わせた指導を行うなど、効果的な指導方法を工夫できることになっています。

6 第1章第3節の3の(2)のア及び(3)のオ関連

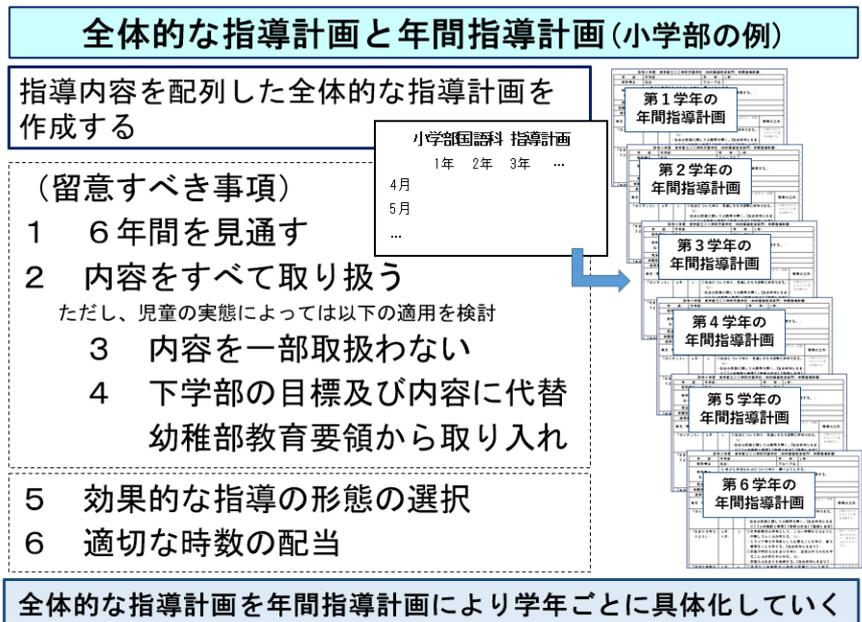
知的障害の特別支援学校の場合、年間の標準授業時数は規定されていますが、その内訳となる各教科等の授業時数は定められていません。そのため、各教科等の目標及び内容を考慮し、それぞれの年間の授業時数を適切に定めることになっています。このことは各教科等を合わせて指導を行う場合にも同様です。

7 第2章第1節第2款第2の1及び第2節第2款第2関連

指導計画の作成に当たっては、個々の児童・生徒の知的障害の状態等を考慮しながら、各教科の目標及び内容を基に、6年間、3年間を見通して、全体的な指導計画に基づき具体的な指導目標や指導内容を設定することになっています。全体的な指導計画とは、各教科の内容に示されて

いる項目について、6年間や3年間を見通しながら、指導内容を配列したものとされています。

ここで注意が必要なのは、3年間を見通して、指導内容を配列することを求められているということです。年間指導計画は、あくまでも全体的な指導計画を具現化したものであり、学校として全体的な指導計画を作成していくことが大切です。



Ⅲ 個別指導計画とは 全校種

個別指導計画は、児童・生徒一人一人に即した指導計画です。

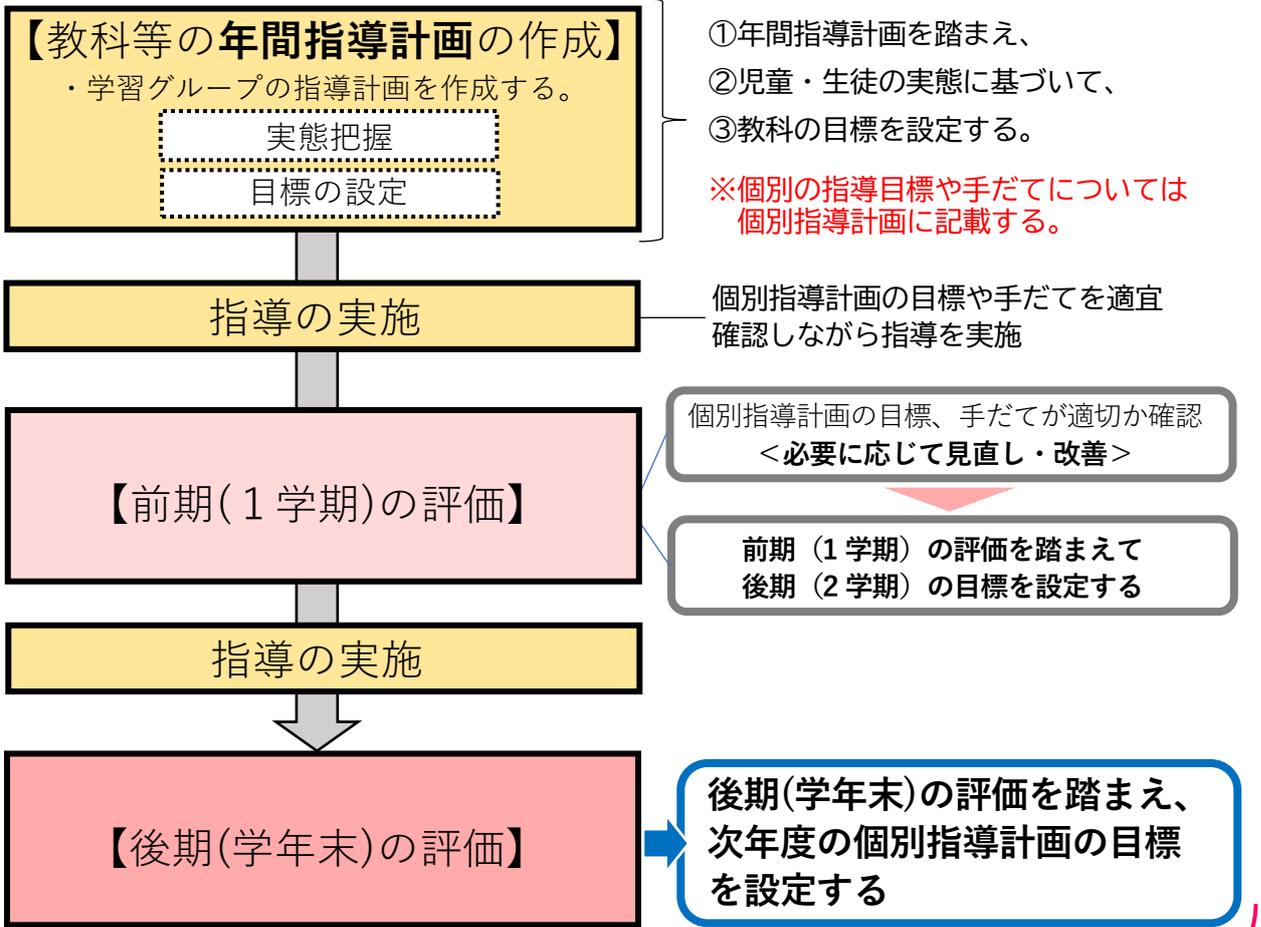
特別支援学校に在籍する児童・生徒の障害の程度や状態が多様です。そのため、一人一人の実態に応じたきめ細やかな指導を充実させる必要があります。

個別指導計画は、児童・生徒一人一人の実態に応じて目標を設定し、実態に応じた指導の内容や方法を検討し、目標を達成することができるように指導を充実させるために必要なものと言えます。

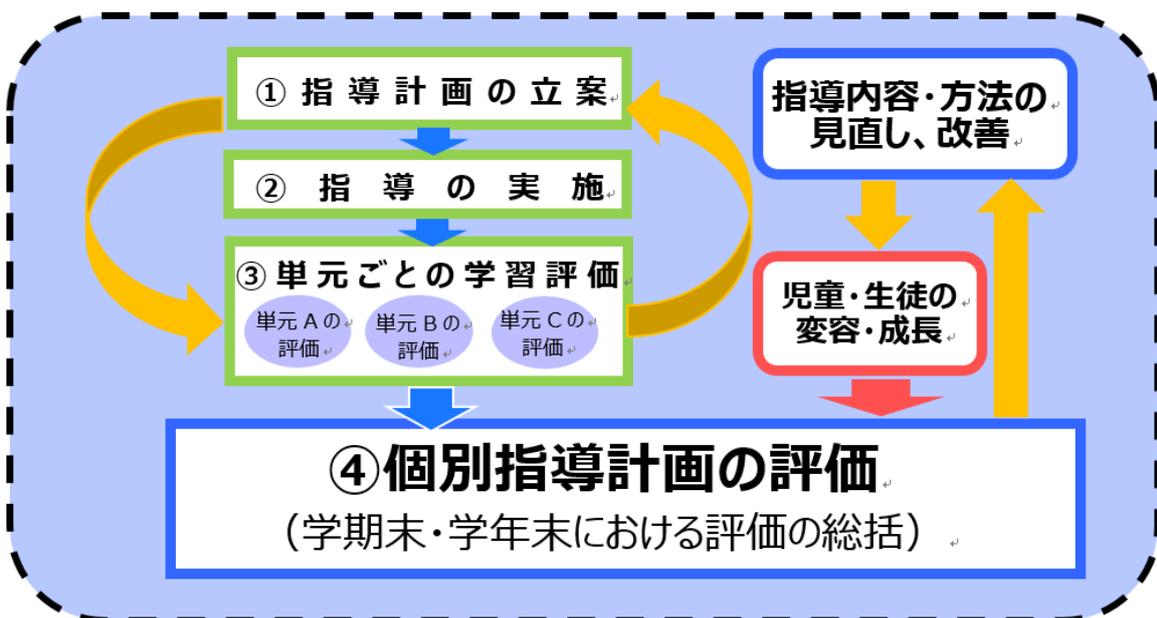
IV 個別指導計画の作成の手順の例

全校種

個別指導計画の作成の手順を例示します。



視覚的に示すと
このようになります



V 個別指導計画に基づく評価について 全校種

個別指導計画の様式例とともに、個別指導計画の評価の作成のポイントを説明します。

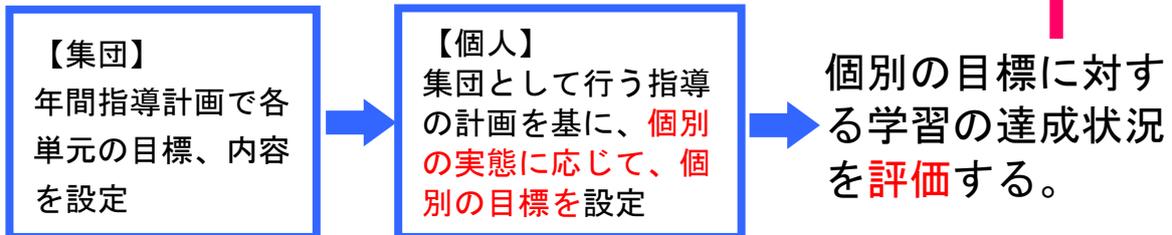
【前期】

	学習内容	目標	手だて	評価
国語	○・・・ ○・・・ ○・・・	①・・・ ②・・・	①・・・ ②・・・	
社会	○・・・ ○・・・ ○・・・	①・・・ ②・・・	①・・・ ②・・・	
数学	○・・・ ○・・・ ○・・・	①・・・	①・・・	
・・・	・・・			

評価の記述については、学校により異なる
 例① 目標に対応するように3観点で記述
 例② 特筆したい評価に焦点を当てて記述

<大切なこと>

児童・生徒の実態に適した目標を設定していること



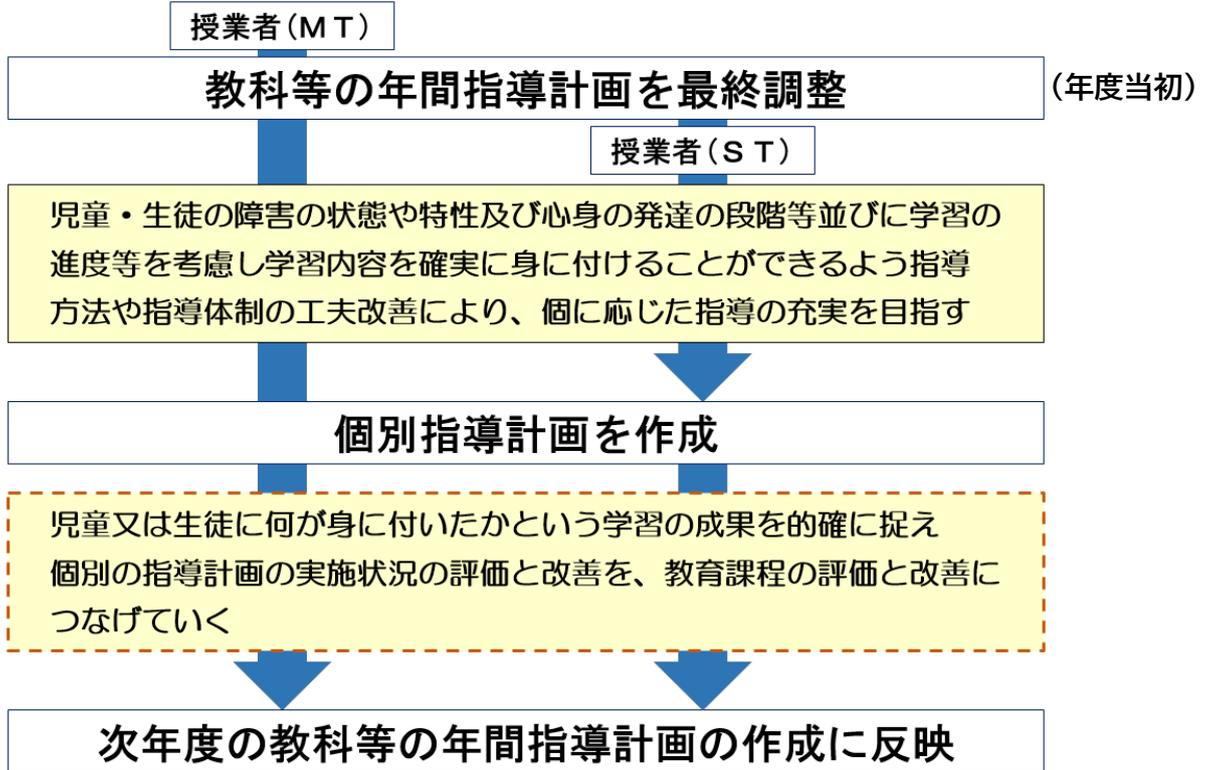
大切なことは、

- ①設定した個別の目標の達成状況を捉え、評価すること。
- ②観点別学習状況の評価の3観点の視点を踏まえて評価すること。
- ③評価計画に沿って指導の記録をとり、記録を基に評価すること。

※印象的な出来事や記憶にのみ頼った評価は適切ではないため、指導の記録を確認することが重要です。

VI 教育課程の改善につなげる年間指導計画の作成 全校種

個別指導計画の実施状況の評価と改善を、教育課程の評価と改善につなげる基本的な考え方は、以下のとおりです。ここでは年間指導計画の改善につなげる流れがポイントとなります。



※授業者(MT)：授業を中心となつて行う教師をイメージ

授業者(ST)：児童・生徒の支援を行うなど授業をサポートする教師をイメージ

個別の指導計画の実施状況の評価と改善を、年間指導計画の評価と改善につなげていく具体例を以下に説明します。

年間指導計画

3年生の年間指導計画

学年	学期	単元	指導事項	指導の工夫
3	1	1	①身がしき直るものについて知り、身につかせる。	①「さくら」を題材として、児童の興味・関心を引き出す。
		2	②足指と指のつながりについて知り、身につかせる。	
3	2	1	①足指と指のつながりについて知り、身につかせる。	①「さくら」を題材として、児童の興味・関心を引き出す。
		2	②足指と指のつながりについて知り、身につかせる。	

実施、評価、改善

3年生の年間指導計画

学年	学期	単元	指導事項	指導の工夫
3	1	1	①身がしき直るものについて知り、身につかせる。	①「さくら」を題材として、児童の興味・関心を引き出す。
		2	②足指と指のつながりについて知り、身につかせる。	
3	2	1	①足指と指のつながりについて知り、身につかせる。	①「さくら」を題材として、児童の興味・関心を引き出す。
		2	②足指と指のつながりについて知り、身につかせる。	

年間指導計画を踏まえて作成

学年	学期	単元	指導事項	指導の工夫
4	1	1	①身がしき直るものについて知り、身につかせる。	①「さくら」を題材として、児童の興味・関心を引き出す。
		2	②足指と指のつながりについて知り、身につかせる。	
4	2	1	①足指と指のつながりについて知り、身につかせる。	①「さくら」を題材として、児童の興味・関心を引き出す。
		2	②足指と指のつながりについて知り、身につかせる。	

実施、評価、改善

4年生の年間指導計画

学年	学期	単元	指導事項	指導の工夫
4	1	1	①身がしき直るものについて知り、身につかせる。	①「さくら」を題材として、児童の興味・関心を引き出す。
		2	②足指と指のつながりについて知り、身につかせる。	
4	2	1	①足指と指のつながりについて知り、身につかせる。	①「さくら」を題材として、児童の興味・関心を引き出す。
		2	②足指と指のつながりについて知り、身につかせる。	

個別指導計画

小学部第3学年を例にすると、同じ学年の児童・生徒の個別指導計画の評価を束ね、これらに基づいて、今年度実施した小学部第3学年の年間指導計画について、必要な改善を行います。同時に、小学部第3学年は、次年度第4学年に進級することになることから、翌年度に向け、第4学年の年間指導計画の改善に生かしていくことが重要です。

年間指導計画は、全体的な指導計画の一部であり、各教科の内容に示されている項目について、6年間を見通しながら、小学部として指導内容を配列したものになります。しかし、児童・生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等は様々であり、学年単位で概括したとしても、個々の児童・生徒の実態全てをまとめて示すことはできません。

そのため、学校としての全体的な指導計画を常に改善させつつ、それぞれの学年の実態に合わせて微調整を行っていくことが大切になります。その際の根拠となるのが、個別指導計画の実施状況の評価と改善の内容となります。

ここまでの検討結果をまとめると、これからの特別支援学校で取り組んでいかなければならない取組は次の3つになります。

- ① 学校としての全体の指導計画を、学習指導要領を踏まえつつ、適切に整えていく
- ② 学年集団を構成する児童・生徒の個別指導計画の評価を踏まえ、一人一人が達成した指導目標や指導内容等を集約していく
- ③ それぞれの学年集団の個別指導計画の評価を集約を踏まえ、それぞれの学年が、当該学年及び翌学年の年間指導計画の改善を図る

さらに、この取組を学校全体の取組として、組織的に取り組めるようにしていくことが重要です。

【年間指導計画の改善について】

児童・生徒の実態や学習の習熟度は学年集団で異なります。そのため、年間指導計画は対象の児童・生徒の実態や習熟度を踏まえて作成する必要があります。
年間指導計画の作成における基本的な流れは以下のとおりです。

- ① 現学年の年間指導計画における見直し、改善を行う。
- ② 当該学年の年間指導計画が、次年度の対象学年の児童・生徒の実態及び習熟度に適しているか確認し、見直しを行う。
- ③ 新年度の教科担当者が再度内容を確認し、必要に応じて改善する。

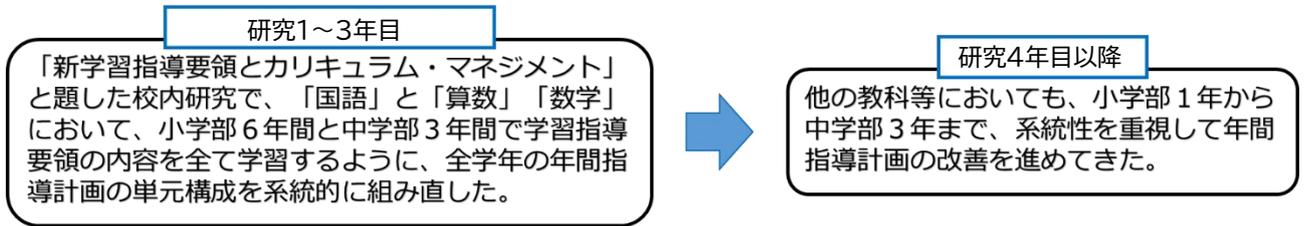
具体的な事例を紹介します。



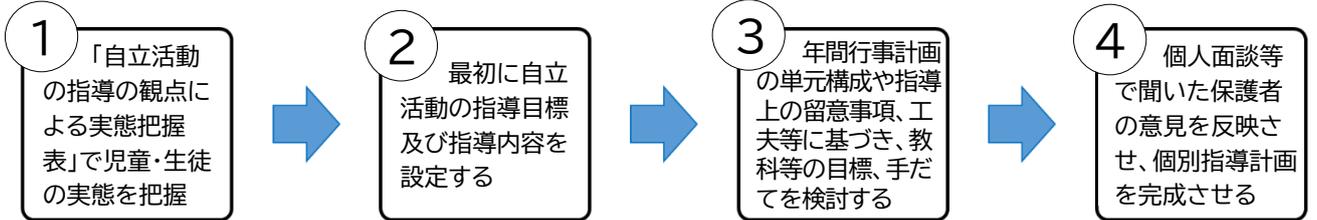
事例①

個別指導計画の効果的な活用を通して、
組織的なカリキュラム・マネジメントに取り組む事例

1 校内研究において、系統性を重視し教科等ごとに各学年の年間指導計画を組み直した。



2 個別指導計画の作成手順を整理した



※ 本校では、担任及び指導担当教員が「自立活動の指導が各教科等において育まれる資質・能力を支える役割を担っている」ことを明確に意識して個別指導計画を作成できるように、「流れ図」に相当する「自立活動の指導の観点による実態把握表」（教員間の引継ぎ資料）を作成又は更新した後、個別指導計画の上段に設けている自立活動の指導目標及び指導内容から設定することとしている。

1

氏名 _____

自立活動の指導の観点による実態把握表（教員用引継ぎ資料）書き方

健康の保持	<ul style="list-style-type: none"> 6区分に分けて実態を簡潔書きで記入する。 特別支援学校学習指導要領解説自立活動編、自立活動の項目（別添）を参考に記述する。 区分がまたがる実態については、どちらに重きがあるかを轉けて記入をする。
心理的な安定	
人間関係の形成	<ul style="list-style-type: none"> 収集した情報を整理して記述する。記述をする観点として①現在の課題にある背景要因は何か ②どのような指導をすれば改善・克服できるかを記述をする。 具体的な設定理由に関しては、轉記名で轉けて行うことが望ましい。 実態把握用を作成して整理したい教員は、別添のテンプレートを使用してデータを預しておく。
環境の把握	
身体の動き	<ul style="list-style-type: none"> 年間の指導目標 ○前期の指導目標（個別指導計画に記録） ○後期の指導目標（個別指導計画に記録） ○前期の指導内容（個別指導計画に記録） ○後期の指導内容（個別指導計画に記録） ○後期に向けて 引き継ぎ事項（家庭での様子、日常生活面）
コミュニケーション	

○保存先
ABCDE > FGHIJ > KLM_NO > PQRST > UV > W_XYZ

2

令和6年度 個別指導計画小学部書き方 児童名 ○○ ○○

自立活動	指導目標	指導内容	評価
自立活動	・学習上又は生活上の困難の中で、改善・克服に取り組みへば中心課題。《自立活動の観点による実態把握表》を作成して書き出す	・（手だてではない）児童・生徒本人が（教員と一緒に）取り組むこと。	・目標に対しての評価を文章で書く。
日常生活の指導	※（知識・技能） ※（思考・判断・表現）	手だて	
生活科	・（知識・技能） ・（思考・判断・表現）		・（主体的に学習に取り組み態度）を含めて評価する。 ・（主体的に学習に取り組み態度）を含めて評価する。
国語・算数	・（知識・技能）国語 ・（思考・判断・表現）国 ・（知識・技能）算数 ・（思考・判断・表現）算		・（主体的に学習に取り組み態度）を含めて評価する。 ・（主体的に学習に取り組み態度）を含めて評価する。 ・（主体的に学習に取り組み態度）を含めて評価する。
音楽	・（知識・技能） ・（思考・判断・表現）		・（主体的に学習に取り組み態度）を含めて評価する。 ・（主体的に学習に取り組み態度）を含めて評価する。
図画工作	・（知識・技能） ・（思考・判断・表現）		・（主体的に学習に取り組み態度）を含めて評価する。 ・（主体的に学習に取り組み態度）を含めて評価する。

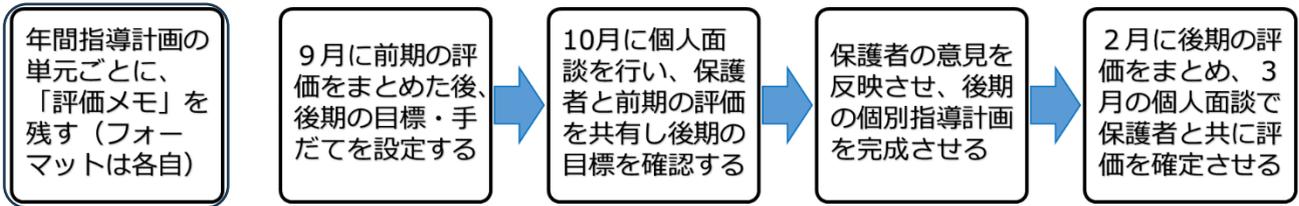
3

自立活動の指導の観点による実態把握表

個別指導計画

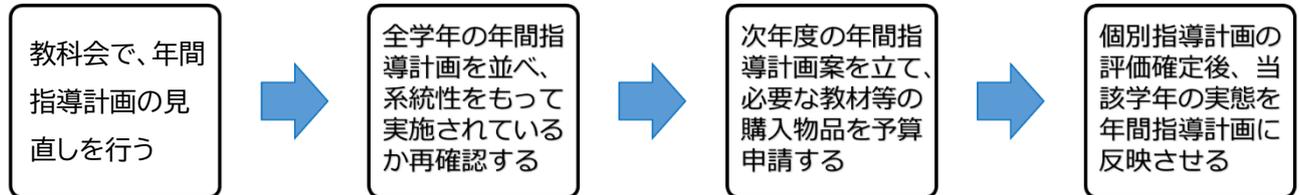
3 個別指導計画の評価を年間指導計画の改善に反映させる流れを整えた。

(1) 単元ごとの評価を個別指導計画に反映させる。



※ 担任及び指導担当教員は、年間指導計画に基づいた単元ごとの指導略案において評価メモ等を残した。また、学年会や授業協議会等で話し合われた授業や児童・生徒のケースの内容を記録し、評価に活用する。（評価メモのフォーマットは各自による。状況に応じて、「自立活動の指導の観点による実態把握表」を更新する。）

(2) 次年度の年間指導計画案を踏まえて予算計画を立てる。

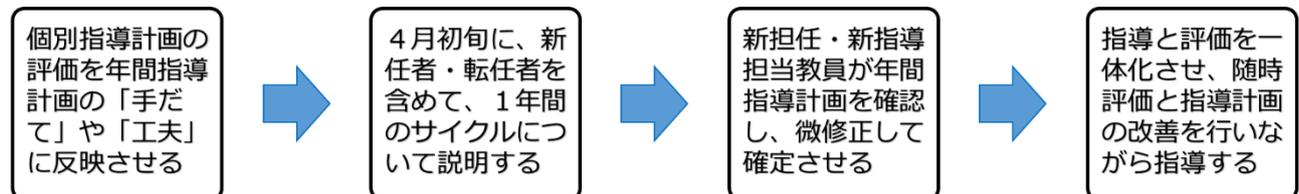


※ 本校では、年間6・7回程度（令和6年度は7回）各教科等の部会を実施している。小学部1年から中学部3年までの年間指導計画を並べて、指導目標や指導内容、扱う題材や教材教具等が系統性をもって設定・実施されているかの確認と改善を行っている。

また、次年度の年間指導計画案に基づいて、必要な購入物品等の予算（公費・私費）を計画する（9～11月）。次年度予算の全体調整を経て、学習指導に必要な教材教具を含めた次年度の年間指導計画を整えている（1～2月）。

【今後の課題】

個別指導計画の評価を次年度の年間指導計画に反映させ、より実態に応じた指導につなげていく。



※ 教員全員が、個別指導計画の評価を活用して教育課程を充実させていくサイクルを理解して実践できるように、4月初旬の会議・研修等を精選して、説明する機会を設けることが課題である。

事例②

年間指導計画の改善により、
個別指導計画の目標、手だて、評価の充実を図った事例

PLAN 年間指導計画の見直し

(1) 「学習指導要領の基準性」の確認

学習指導要領に示している内容は、全ての児童・生徒に対して確実に指導しなければならないものであると同時に、個に応じた指導を充実する観点から、児童・生徒の学習状況など、その実態等に応じて必要がある場合には、各学校の判断により、学習指導要領に示していない内容を加えて指導することも可能である。(学習指導要領の「基準性」)

(特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説 総則編)

(2) 学習指導要領の内容を網羅しているかを確認(例：中学部「職業・家庭」1段階)

- ・学習指導要領の内容一覧に①取扱う学年②指導の形態(各教科もしくは合わせた指導)③単元名④具体的な指導内容を記載した付箋を貼り、学習指導要領の内容を網羅できているかの確認を行った。

家庭分野	A 食事の役割 食事の仕方や食事の大切さに気付くことなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	知・技	(ア)健康な生活と食事の役割について知ること。	(ア)	中1・2生生活単元学習 「相撲大会」特製ちゃんこづくり	
		思・判・表	(イ)適切な量の食事をとることの大切さに気付き、それらを他者に伝えること。	(イ)		
		学びに向かう力				
	B 衣食住の生活	イ 調理の基礎 必要な材料を使って食事の準備をすることなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	知・技	(ア)簡単な調理の仕方や手順について知り、できるようにすること。	(ア)	中3 生活単元学習 「さくら庵でおもてなし」和菓子づくり
			思・判・表	(イ)簡単な調理計画について考えること。	(イ)	
			学びに向かう力			
ウ 衣類の着用と手入れ 衣類の着方や手入れの方法などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	知・技	(ア)場面に応じた日常着の着方や手入れの仕方などを知り、実践しようとする。	(ア)	中1 生活単元学習 「中学部生活を始めよう」身だしなみ		
	思・判・表	(イ)日常着の着方や手入れの仕方に気付き、工夫すること。	(イ)			
	学びに向かう力					
エ 快適な住まい方 持ち物や整理や住まいの清掃などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	知・技	(ア)住まいの主な動きや、整理・整頓や清掃の仕方について知り、実践しようとする。	(ア)	中1・2 日常生活の指導「教室清掃」		
	思・判・表	(イ)季節の変化に合わせた住まい方、整理・整頓や清掃の仕方について気付き、工夫すること。	(イ)			
	学びに向かう力					
C 消費生活・環境	ア 身近な消費生活 買物の仕組みや必要な物の選び方などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	知・技	(ア)生活に必要な物の選び方、買い方、計画的な使い方などについて知り、実践しようとする。	(ア)	中1・2・3 生活単元学習 「相撲大会」ちゃんこづくりに関わる買物 「さくら庵でおもてなし」和菓子づくり	
		思・判・表	(イ)生活に必要な物を選んだり、物を大切に使うこと。	(イ)		
		学びに向かう力				
イ 環境に配慮した生活 身近な生活の中で環境に配慮することに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	知・技	(ア)身近な生活の中で、環境に配慮した物の使い方などについて知り、実践しようとする。	(ア)	中1・2・3 作業学習 「紙工班」牛乳パックをリサイクルした製品づくり		
	思・判・表	(イ)身近な生活の中で、環境に配慮した物の使い方などについて考え、工夫すること。	(イ)			
	学びに向かう力					

(3) 各教科及び各教科等を合わせた指導の単元の配置

生活単元学習を核として、各教科の関連する単元を同時期に配置した。(例：中学部2年12月)

生活単元学習 「相撲大会をひらこう」		
各教科	相撲大会と関連する学習内容	学習指導要領上の内容
国語	相撲大会の招待状を書き、渡す。	知1ウ(イ) / 思1Bウ
数学	取組の勝敗を記録し、判断するグラフの活用	知1Dア(ア) ㉞ / 思1Dア(イ) ㉞
音楽	オープニングで演奏する和太鼓の演奏	知1Aイ(ウ) ㉞㉟ / 思1Aイ(ア)
美術	のぼり旗や懸賞旗などの装飾づくり	知1Aア(イ) / 思1Aア(ア)
保健体育	武道(相撲)	知1Fア / 思1Fイ / 主1Fウ

(4) 年間指導計画と個別指導計画への観点別学習状況の評価の明確化

- ・年間指導計画の「指導の主な内容」が3観点のうちのどの観点到当たるのか、あらかじめ明記した。年間指導計画に示した評価の観点到を基に、個別指導計画に具体的な目標、手だてを記載した。

<年間指導計画>

教科名		国語・数学		学習集団 (教育課程)	第2学年 4班 普通学級 (知的障害)
学期	月	単元名	時間数	主な学習内容 (評価の観点到)	
2	12	「招待状を書こう」	8	(知) (思)	招待状に必要な表現や挨拶を知る。 文の構成や語句に気を付けて書く。
		「グラフで表そう」	10	(知) (思)	ゲームや試合の得点を表に表す。 表に表された事柄を見て、多少を読み取る。

<個別指導計画>

教科	個人目標	学習内容	指導の手だて
国語・数学	(知) 招待状に必要な項目 (5W1H) が分かる。 (思) グラフから多少を読み取り、勝敗を判断する。 (主) 目的により応じたフラフの表し方をすすんで探索しようとする。	・招待状を書こう ・グラフで表そう	・必要な項目を選択肢として提示する。 ・日常使用している気持ちカードを使用し、想起しやすいようにする。 ・生徒の自発的な発見や発言を受け止め、自由に探索できるようにする。

DO 授業の実施

個別指導計画に記載した指導の手だてに基づき、目標をする内容を実施。

CHECK 学期ごとの評価

学期ごとに各単元の評価を行い、次年度の年間指導計画の改善点を確認する。

- ・単元ごとに実施状況を評価し、次の指導に生かすとともに、次年度の年間指導計画の改善事項を書き残せるようにした。

単元名	指導時数	評価	A そのまま実施 B 一部変更し実施 C 単元の見直し
招待状を書こう	8	・生活単元学習の相撲大会と合わせて学習することで、意欲的に学習ができた。 ・始めに招待状をもらい、招待状に書かれている項目にそって活動することで、必要な項目を体験的に学習することができた。 ・指導内容は6時間で達成できた。今後も招待状を書く機会もあるので、本単元の時数は減らす、もしくは招待状を渡す学習にボリュームをもたせ、知ア(イ)(カ)など話し伝えることに関する目標を合わせて指導できるとよい。	B 他の単元でも取り扱う内容であり、指導時間は6時間で目標をおおむね達成できた。次年度は指導時数を6時間に減じる。
グラフで表そう	10	・生活単元学習の相撲大会と合わせ、繰り返し学習できたことで、一つの事象をいろいろなグラフで表すことができることの気付きがあった。 ・一勝に対して一つのシールを貼ることを理解する、10勝を一つのまとまりとして理解し活用することなど、一つの題材を通して、生徒の実態に応じた学習活動ができた。	A

ACTION 翌年度の年間指導計画の作成

単元の評価で明らかとなった課題を、次年度の年間指導計画に反映させ改善する。